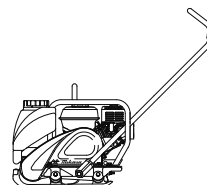




プレートコンパクター

MVC-T90H



取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。



<http://www.mikasas.com>

401-02607



目 次

1	はじめに.....	1
2	機械の用途及び構造と動力伝達.....	1
3	警告サイン.....	2
4	安全のための注意事項	2
	4.1 一般的な注意事項	2
	4.2 給油中の注意事項	2
	4.3 使用場所、換気に関する注意事項	2
	4.4 作業前の注意事項	3
	4.5 作業上の注意事項	3
	4.6 リフティング時の注意事項	3
	4.7 運搬・保管に関する注意事項	3
	4.8 整備上の注意事項	3
	4.9 ラベルの取付位置図	4
	4.10 警告ラベルの絵文字説明	5
5	外観図	6
	5.1 外観寸法図	6
	5.2 コントロール装置位置及び装置名称	7
6	仕様.....	8
	6.1 本体	8
	6.2 エンジン	8
7	運転前点検	9
	7.1 各部点検内容	9
	7.2 回動式移動車の使用方法(移動車仕様)	10
8	運転.....	12
	8.1 始動	12
	8.2 運転	12
9	停止.....	13
10	輸送と保管	14
	10.1 積み降ろし	14
	10.2 運搬	14
	10.3 保管	14
11	定期点検と調整.....	15
	11.1 各部点検スケジュール	15
	11.2 エンジンオイルの交換	15
	11.3 エアークリーナーの清掃	15
	11.4 Vベルト・クラッチの点検	16
	11.5 起振体オイルの点検・交換	16
12	トラブルシューティング.....	17
	12.1 エンジン	17
	12.3 本体	17

1. はじめに

- この取扱説明書は、プレートコンパクターの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、**ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。**
- お読みになった後も**必ずお手元に保管し**、分からない事があった時には取り出してお読みください。
- エンジンの取扱に関しては、別途**エンジン取扱説明書**を参照してください。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせください。なお、パーツリストは当社ホームページ <http://www.mikasas.com/> の三笠WEBパーツリストでも公開しております。是非ご利用ください。

この取扱説明書に記載されているイラストが、設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

2. 機械の用途及び構造と動力伝達

用 途

本機は起振体の一軸振動を転圧盤を介して地面に伝え、表面を平坦にする機械です。土砂及び砂利の敷き均しや、アスファルト舗装の仕上げ作業等表面を平坦にする作業に適します。

水分の多い地面、特に粘土質の現場では、本機が進行せず作業に適しません。また、大きな石が含まれた土質の場合、転圧力が不足し敷き均しが出来ません。

本機は表層を平坦にする機械であり、締め固めを重視する現場には適しません。下層まで締め固めが必要な場合は、ランマー、バイブロコンパクター、振動ローラー等締め固め効果が大きい作業機を使用してください。

本機は土砂、土、砂、及びアスファルトの転圧に使用します。それ以外の作業に使用してはいけません。

構 造

本機上部は、エンジン、ハンドル、ベルトカバー、散水タンク(オプション)及びガードフックで構成されており、これらを固定するエンジンベースは転圧盤に防振ゴムを介して固定されています。本機下部は転圧盤と起振体で構成され、起振体には一個のアンバランスシャフト(振子軸)が内臓されています。このアンバランスシャフトには、上部のエンジン出力軸に取り付けられた遠心クラッチからVベルトを介し動力が伝達されます。

動力伝達

原動機として4サイクル空冷単気筒ガソリンエンジンを搭載し、エンジン出力軸には遠心クラッチが取り付けられています。

エンジン回転数を上げる事により、遠心クラッチが繋がり、クラッチドラムと一体のVプーリー・Vベルトを介して起振体Vプーリーと連結し、エンジン回転数を転圧に適した回転数に変換します。

起振体Vプーリーは、転圧盤に固定された起振体ケース内に設けられた一個のアンバランスシャフト(振子軸)を回転させ、それによって生じる振動を転圧盤に伝達させます。

転圧盤の振動で本機は前進し、振動と本機の重量で地面の転圧・均し作業を行います。

3. 警告サイン

本取扱説明書および機械に貼付けてあるラベルの  マークは警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

	人体に対する危険がある場合
 危険	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険が極めて高い場合
 警告	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険があり得る場合
 注意	指示を守らないと、怪我や傷害事故が生じる可能性がある場合
注意 ( マーク無)	指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

4.1 一般的な注意事項

警告

- こんな時は作業をしない。
 - 過労や病気などで体調が悪いとき。
 - 医薬品や薬物を服用したとき。
 - 飲酒をしたとき。



注意

- 取扱説明書をよくお読みいただき正しい取扱いで安全に作業をしてください。
- エンジンの取扱いは別紙エンジン取扱説明書を参照してください。
- 機械の構造を充分理解してください。
- 作業開始前点検、定期自主検査、特定自主検査を確実に実施してください。
- 作業を安全に行うために防護具(ヘルメット、保護靴等は規格品をご使用願います)を着用し、適切な作業服で作業してください。
- イヤーマフまたは耳栓などの騒音保護具を必ず着用してください。
- 常に機械を点検し正常である事を確認してから運転してください。
- 機体の貼り付け銘板(操作方法、警告銘板等)は安全を守るために非常に重要です。本機を清掃し、常に読みやすくしておいてください。読み取りにくくなった場合は、新しい銘板に張り替えてください。
- 幼児等が触れると危険です。保管方法、保管場所には十分に注意してください。特にエンジン始動用キーは、必ず作業終了後にキーを取り外し所定の場所で保管してください。
- 整備する場合はエンジンを停止し、バッテリーの配線を外してから行ってください。
- 製造元が許可していない改造が原因で起こる事故に関しては、弊社は一切の責任を負いません。



4.2 給油中の注意事項

危険

- 燃料を給油する場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料を補給する時には、周囲に可燃性がない平坦な場所を選び、燃料をこぼさないように注意してください。こぼれた場合は良く拭き取ってください。
- 燃料の補給中は火気を絶対に近づけないでください。(特にタバコの喫煙には注意してください)
- 燃料タンクの口元まで燃料を入れると、こぼれる可能性があります。
- 給油後は、タンクキャップをしっかりと締め込んでください。



4.3 使用場所、換気に関する注意事項

危険

- 室内やトンネル内などの換気の悪い場所では使用しないでください。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており大変危険です。火気のある近くでは、運転しないでください。



4.4 作業前の注意事項

⚠ 注意

- 各部分の締付具合を点検して下さい。振動でネジが緩んでいると思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けてください。



4.5 作業上の注意事項

⚠ 注意

- 本機を始動したり作業する時は、周囲の人や障害物に対して安全である事を確認してください。
- 常に足場に注意し、機械のバランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業してください。
- エンジン本体、マフラーは高温になりますので、運転時及び運転直後等の熱い時には触れないように注意してください。
- 運転中に本機の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに本機を停止させ作業を中止してください。
- 本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止させてください。また本機を移動させる時もエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。



4.6 リフティング時の注意事項

クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行って下さい。

⚠ 危険

- 吊り上げ作業に対し、本機部品(特にフック・防振ゴム)の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認してください。
- 吊り上げ時はエンジンを停止させ燃料コックを閉じてください。強度の十分なワイヤーロープ等を使用してください。
- 吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所(ハンドル等)での吊り上げ作業はしないでください。
- 本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないでください。
- 安全の為、必要以上の高さには吊り上げないでください。



4.7 運搬・保管に関する注意事項

⚠ 警告

- 運搬時はエンジンを停止させてください。
- エンジン及び本機がよく冷えてから運搬してください。
- 運搬時は必ず燃料を抜いてください。
- 本機が動いたり、倒れたりしないようしっかりと固定してください。

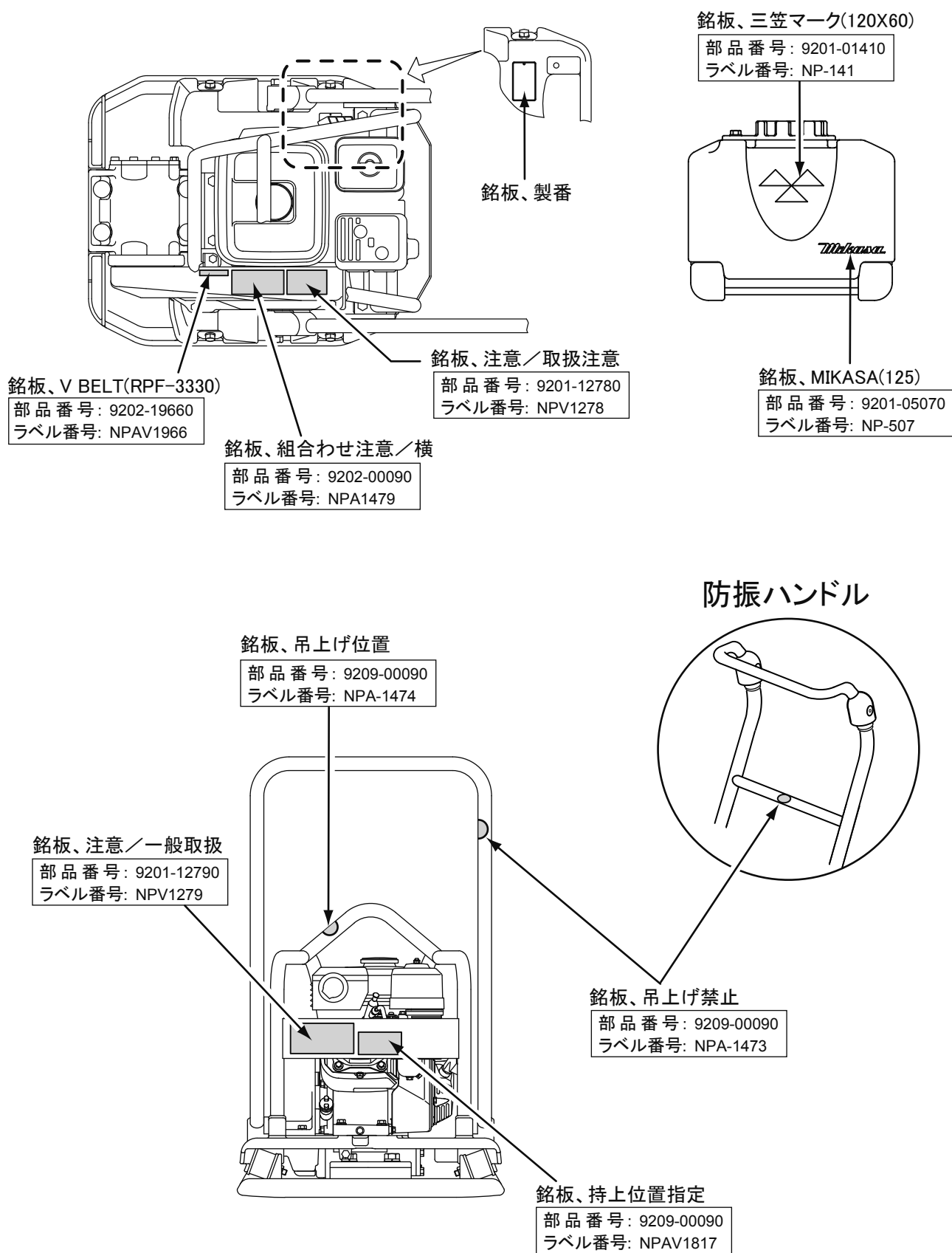
4.8 整備上の注意事項

⚠ 注意

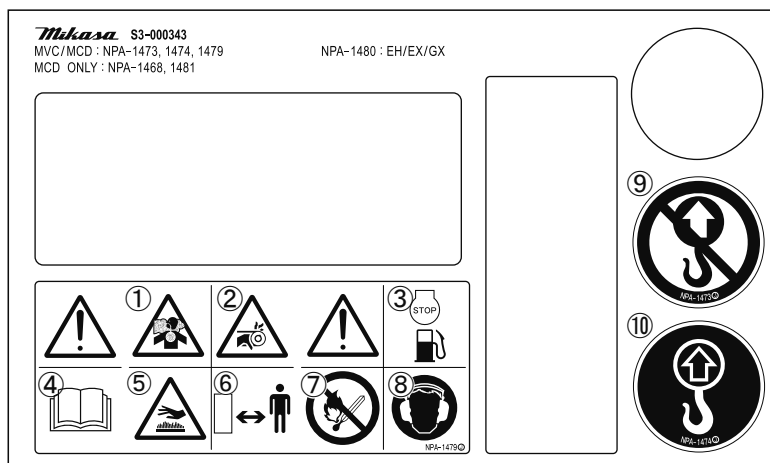
- 安全を確保し、本機の性能を維持する為に、適切な整備が必要です。本機の状態を充分留意し、良好な状態を維持してください。特に、リフティング関連部品の不適切な整備は重大事故の原因となります。
 - 本機の温度が下がってから作業を行ってください。特にマフラーは高温になり、火傷をするおそれがあります。またエンジンやエンジンオイル、起振体等も熱くなりますので、火傷をしないよう充分注意してください。
 - 点検調整は、必ずエンジンが停止した状態で行ってください。回転部に巻き込まれ、重大な傷害を負う危険性があります。
 - 整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行ってください。特に、ボルト・ナットの点検は充分行ってください。
- 分解を伴う整備を行う場合は、必ず整備解説書を参照し、安全に作業を行ってください。

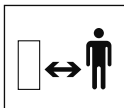
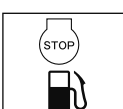


4.9 ラベルの取付位置図



4.10 警告ラベルの絵文字説明



- | | |
|---|---|
| <p>①  排気ガス吸引注意
排気ガスを吸引しますと一酸化炭素中毒になりますので、換気の悪い場所で運転しないでください。</p> | <p>⑥  危険箇所への接近注意
運転中は高温部や回転部には近づかないでください。必要な場合は必ずエンジンを停止してください。</p> |
| <p>②  回転部への巻き込み注意
運転中に回転部へは近づかないでください。Vベルト等の部品を交換する時は、必ずエンジンを停止してください。</p> | <p>⑦  火気厳禁
運転中や保管時、給油時には火気に注意してください。長期間使用しない場合は、燃料を抜き取って保管してください。</p> |
| <p>③  給油時のエンジン停止
給油時は必ずエンジンを停止し、引火の恐れが無いようにエンジンが冷えてから行ってください。</p> | <p>⑧  耳栓(イヤーマフ)の使用
本機の運転中は必ず耳栓(イヤーマフ)を使用してください。</p> |
| <p>④  取扱説明書熟読
運転前には必ず取扱説明書をよく読んで、操作内容を充分理解してください。また、いつでも確認できるように保管してください。</p> | <p>⑨  指定箇所以外での吊下げ禁止
本機を吊り下げる場合は、必ず指定された箇所で行ってください。</p> |
| <p>⑤  高温部への接触注意
運転中や停止直後に、高温部(エンジンやマフラー等)に触れると火傷の恐れがあります。</p> | <p>⑩  吊下げ箇所の指示
本機を吊り下げる場合は、必ずこの箇所で行ってください。他のところで吊下げると危険です。</p> |



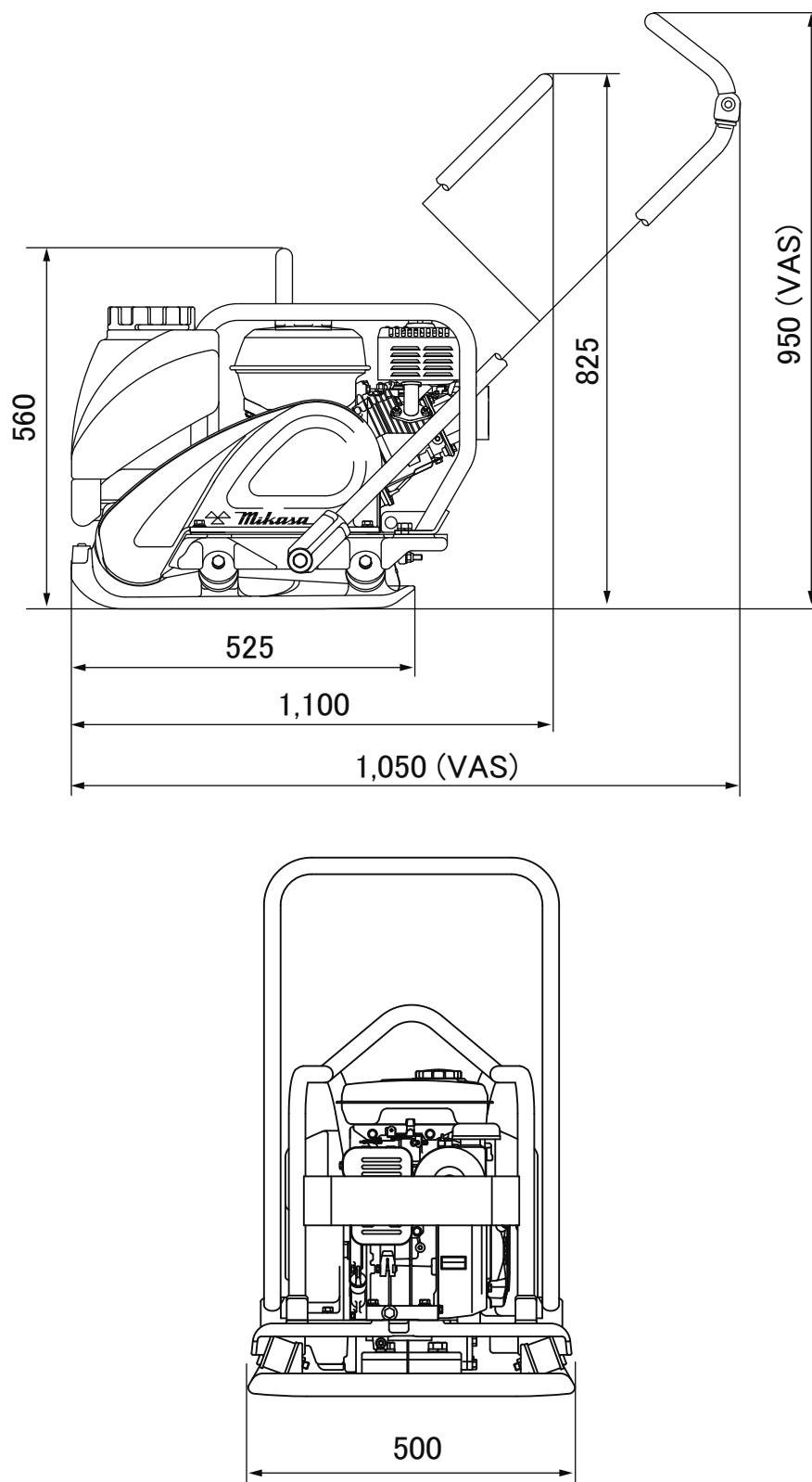
エンジン付属銘板

- | | |
|---|--|
| <p>① 火気厳禁
給油時は必ずエンジンを停止させてください。給油口に火気を近づけると火災の危険があります。</p> | <p>③ マフラー高温注意
マフラー及びその周辺に触れないでください。</p> |
| <p>② 排気ガス中毒に注意
排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒等を引き起こす危険性があります。換気の悪い場所では運転しないでください。</p> | <p>④ 取扱説明書熟読
安全のためご使用前に必ず取扱説明書をお読みください。</p> |
| | <p>⑤ 燃料はガソリンを使用してください。</p> |

5. 外観図

5.1 外観寸法図

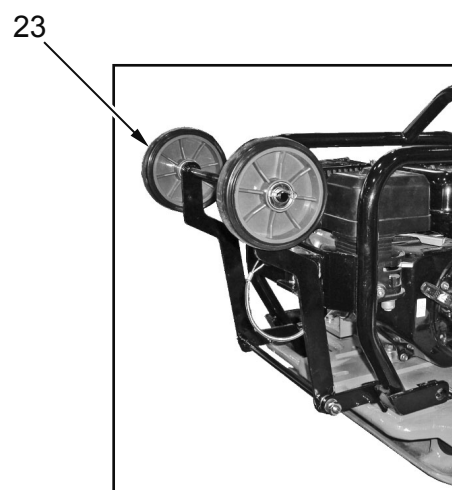
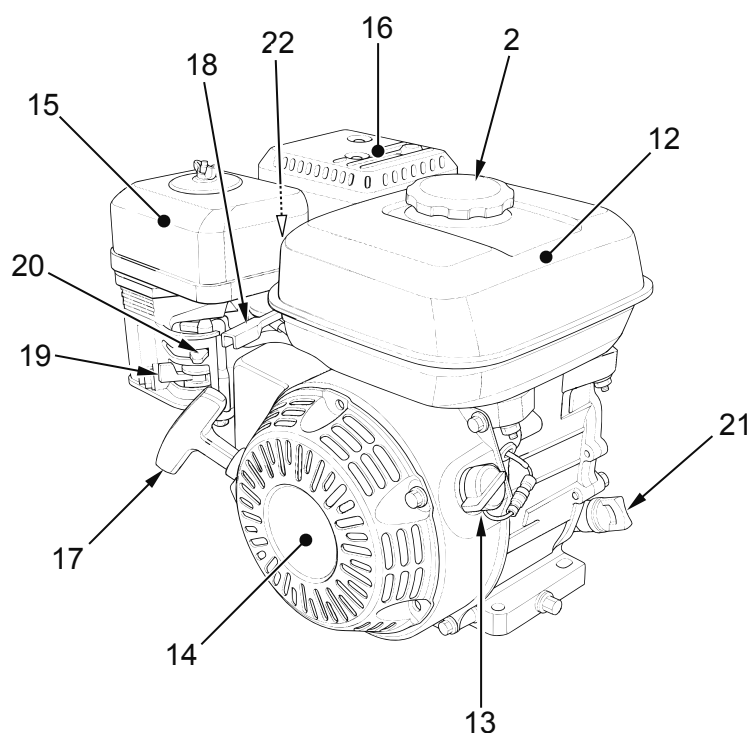
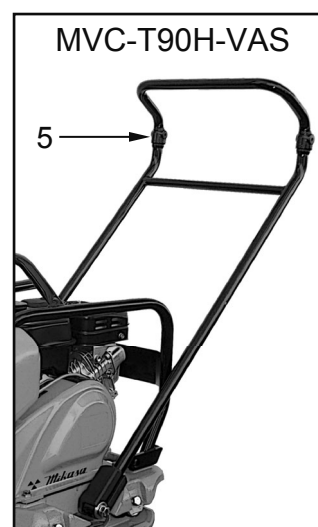
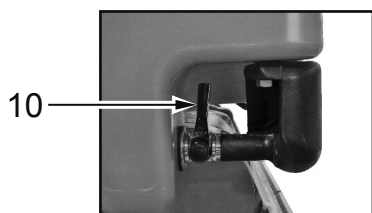
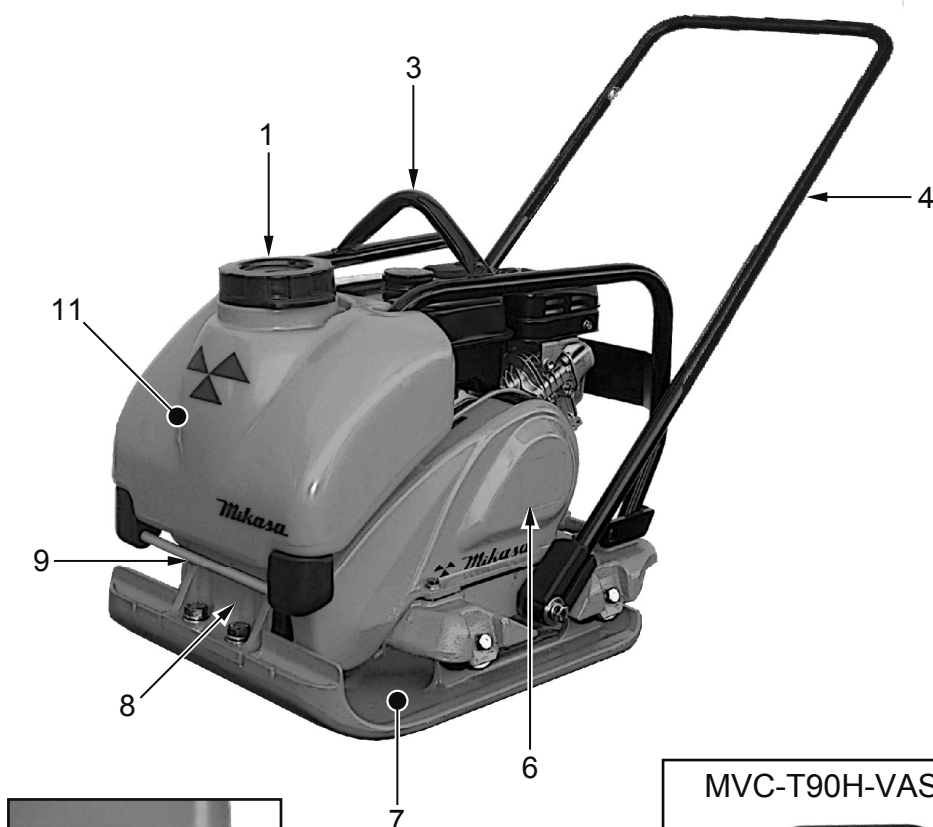
単位：mm



※ “VAS”とは「Vibration Absorbing System (防振ハンドル)」のことです。

5.2 コントロール装置位置及び装置名称

1. 水タンクキャップ
2. 燃料タンクキャップ
3. 吊り上げフック
4. ハンドル(STD)
5. 防振ハンドル(VAS)
6. ベルトカバー
7. 転圧盤
8. 起振体
9. 散水パイプ
10. 水コック
11. 水タンク
12. 燃料タンク
13. エンジンストップスイッチ
14. リコイルスターター
15. エアークリーナー
16. マフラー
17. スターター用グリップ
18. 调速レバー
19. 燃料コック
20. チョークレバー
21. オイルゲージ(給油口)
22. スパークプラグ
23. 回動式移動車



6. 仕様

6.1 本体

型 式	MVC-T90H	MVC-T90H-VAS
搭 載 エ ン ジ ン	ホンダ GX160	←
主 要 寸 法		
全 長	1100 mm	1050 mm
全 幅	500 mm	←
全 高 (ハンドル)	825 mm	950 mm
転 圧 盤 (長さ×幅)	500 X 525 mm	←
性 能		
振 動 数	100Hz (6000 vpm)	←
遠 心 力	15.0 kN (1530 kgf)	←
速 度	25 m/min	←
起振体オイル量	200 cc	←
起振体オイル	SAE10W-30	←
機 械 質 量	95 kg	98 kg
運 転 質 量	108 kg	111 kg
使用 V ベルト	RPF3330	←
水タンク容量	13 L	←

※ “VAS”とは「Vibration Absorbing System (防振ハンドル)」のことです。

※ 回動式移動車を装備した際の機械重量は各重量に4kg増加します。

6.2 エンジン

型 式	ホンダ GX160
機 関 型 式	空冷 4 サイクルガソリンエンジン
容 積	163 cc
最 大 出 力	3.6 kW/3600 rpm 4.9 PS/3600 rpm
冷 却 方 式	強制空冷式
使用潤滑油	自動車用エンジンオイル (SE 級以上) SAE#20 ~ #30(寒冷時 10W-30)
潤 滑 油 量	0.58 L (580 cc)
使用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン
燃料タンク容量	3.6 L
使用 点 火 栓	NGK BPR6ES

7. 運転前点検

7.1 各部点検内容

⚠ 危険

点検時は必ずエンジンを停止させてください。運転中の点検は、回転部に巻き込まれるなど、重大な傷害を負う危険性があります。本機を水平にし、機体が動かない事を確認してから点検してください。

- 作業前の点検箇所は14ページに記載の「各部点検スケジュール表」を参照してください。

- 1 各部を綺麗に掃除し、泥・埃の無いように手入れをしてください。特に転圧盤の底面に付着した泥、エンジンの冷却風吸入口、気化器及びエアクリーナーの周辺は綺麗にしてください。
- 2 各部の締付ネジが緩んでいないか確認してください。振動のためネジが緩んでいると思わぬ事故や故障の原因となります。
- 3 ガードフック、ベルトカバー、防振ゴムを点検し、破損が無いか確認してください。
- 4 Vベルトの緩みを点検してください。張りの具合は両軸の中間の所を強く指で押して10～15mm位たわむように張ってあれば正常です。Vベルトが緩んでいますとベルトがスリップしてエンジンの動力伝達が悪くなると共にベルトが発熱し、Vベルトの寿命も短くなります。また発生する転圧力が小さいのでエンジンの回転を上げると不整振動が発生し故障の原因となります。
- 5 エンジンを水平にしてオイルを点検し、不足している場合は補充してください。(図1)
エンジンオイルは下記の表にしたがって使用してください。

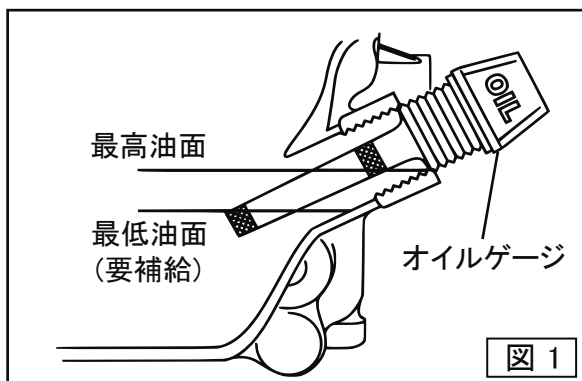


図 1

	温度	使用オイル(SE級以上)
夏	25℃以上	SAE#30
春・秋	25～10℃	SAE#30、#20
冬	10～0℃	SAE#20
	0℃以下	SAE#10

- 6 本機を水平にして起振体のオイルレベルプラグを外し、起振体オイルが口元まで入っているか確認してください。オイルレベルプラグは起振体ケース右側面(反ベルト側)にあります。(図2)
 - 起振体オイルはエンジンオイル#10W-30を使用してください。油量は200ccです。
起振体オイルは1ヶ月又は200時間運転毎にプラグを外し、機体を傾けて全て排出させ、新しい物と交換してください。

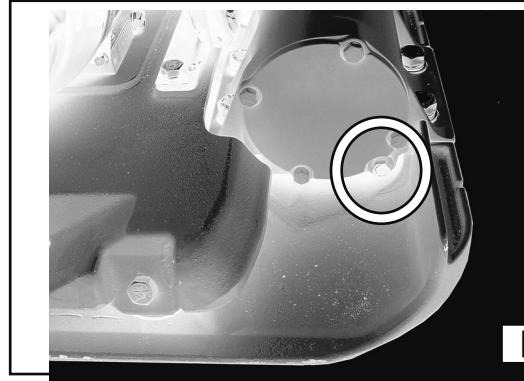


図 2

- 7 燃料は自動車用無鉛ガソリンです。燃料を入れる場合は必ずフィルターを通して濾過しながら入れてください。

⚠ 危険

- 燃料を給油する時は必ずエンジンを停止させてください。火災の危険があります。
- 燃料補給中は絶対にタバコを吸ったりその他の火気を近付けないでください。火傷や火災等重大な危険を引き起こす恐れがあります。
- 燃料を給油する時は周囲に可燃性の無い場所を選んでください。燃料をこぼさないように注意してください。もしこぼれた場合は良く拭き取って乾燥させてください。

- 8 散水作業の場合は水タンクに注水してください。

注 意

水以外を入れてはいけません。水以外の液体を入れると、樹脂・タンクキャップシール等の劣化、膨張の恐れがあり漏れや破損の原因となります。

- 9 水タンクは上方に引き抜く事で取外しが出来ます。外した水タンクを再び装着する場合は水タンクの溝にフックをしっかりと差し込んでください。散水の量はコックで調整ができます。

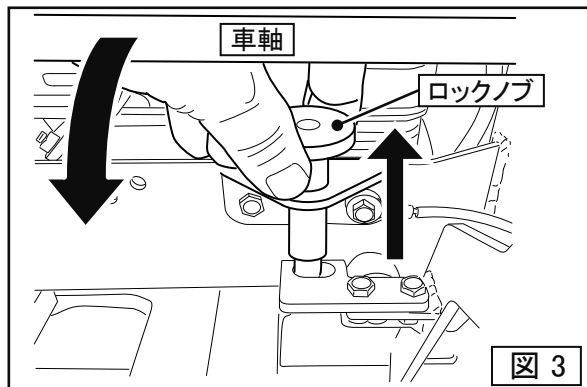
7.2 回動式移動車の使用方法 (移動車仕様)

⚠ 危険

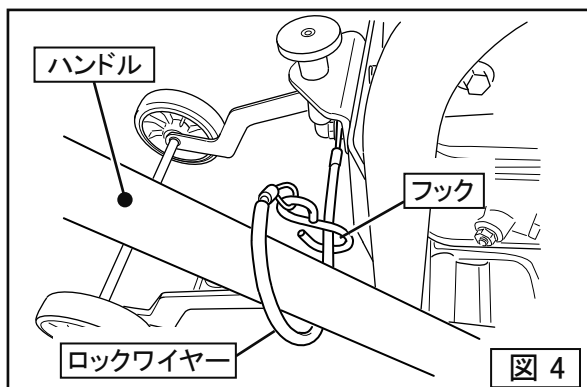
車輪の着脱操作は平坦な固い場所で行ってください。

格納状態から移送状態へ

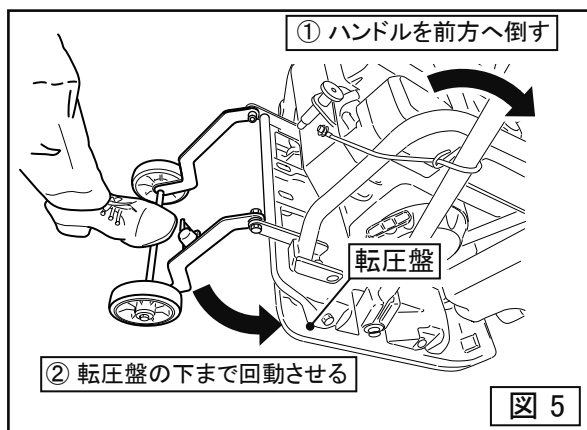
- 1 ロックワイヤーの先端のフックをロックホルダーから外します。
ロックノブを引き上げて、車軸を回動させ車輪を接地させます。(図3)



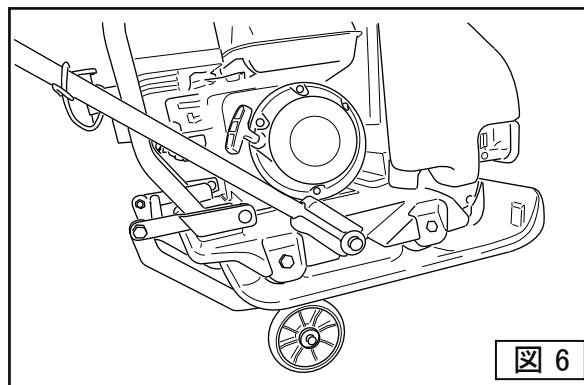
- 2 ロックワイヤーをハンドルに巻き付けてから、先端のフックをワイヤーに掛けます。(図4)



- 3 ハンドルを前方に倒し、転圧盤の後端を浮かし車軸を転圧盤の下に、車軸のアームが転圧盤に接するまで回動させます。(図5)

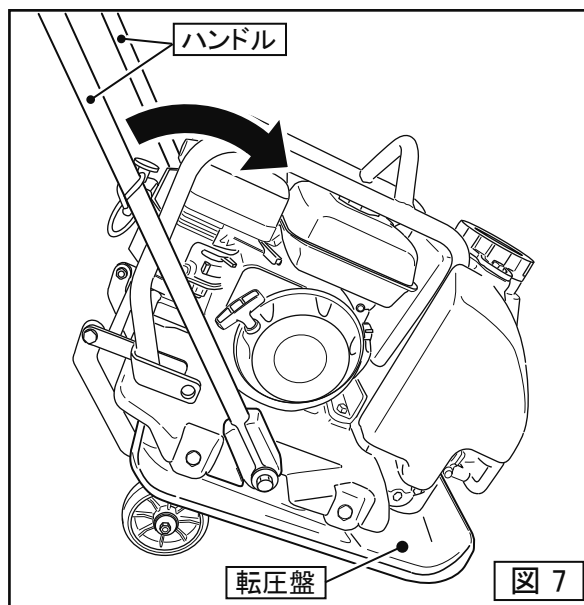


- 4 ハンドルを後方に引き戻し、転圧盤を浮かして機体を移動させます。(図6)

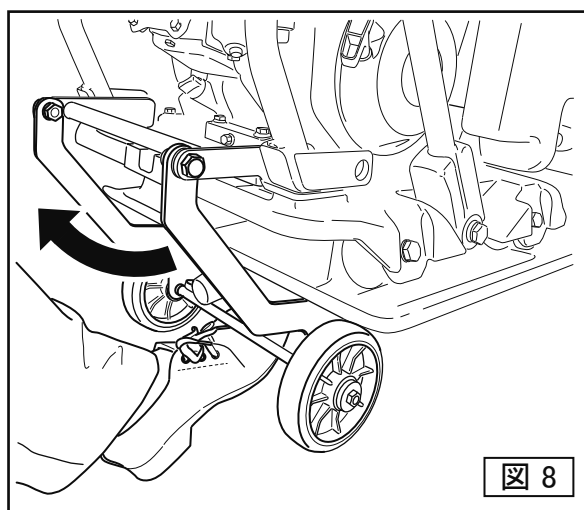


移送状態から格納状態へ

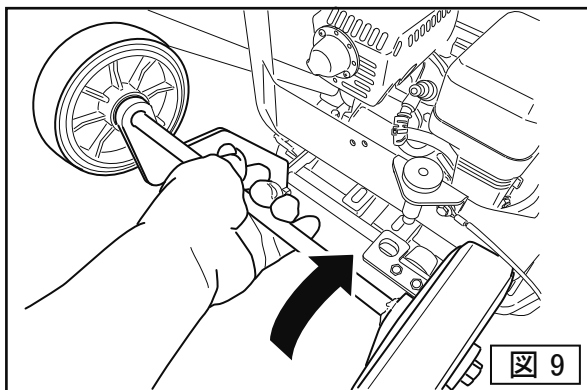
- 1 転圧盤の先端を接地させ、ハンドルを前に倒して車輪を浮かします。(図7)



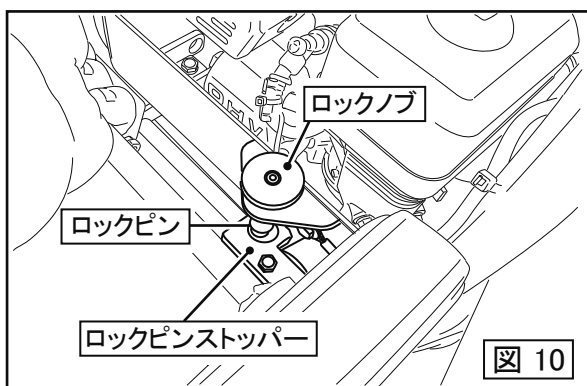
- 2 車軸を後方に回動させ、転圧盤を接地させます。(図8)



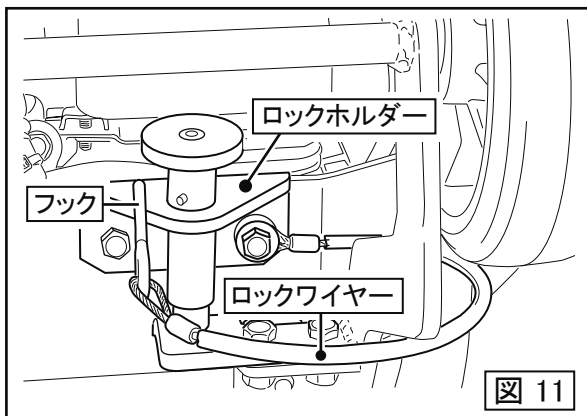
- 3 車軸を持ち上げて格納位置方向に回転させます。(図9)



- 4 ロックピンストッパーがロックピンに当たると、ロックピンが一度せり上がり、ストッパー穴に入ると自動で下がります。このロック状態になるまで回転させてください。(図10)



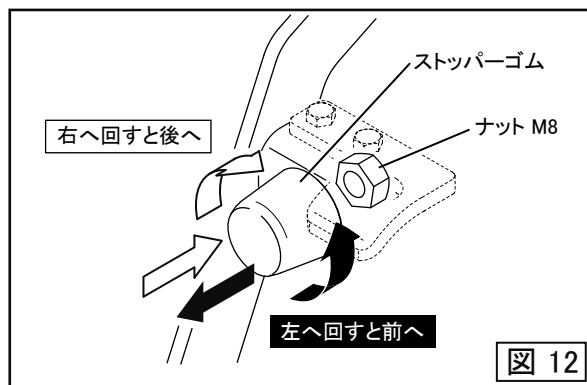
- 5 ロックワイヤーが車軸の後側に回るようにして、先端のフックをロックホルダーの穴に取り付けます。(図11)



調整方法

● ストッパーゴムの調整

ガタツキがある場合や、ロックピンが入る難い場合は、ストッパーゴムを固定しているナット(M8)をゆるめ、ストッパーゴムの回転させて前後方向の位置を調整してください。(図12)

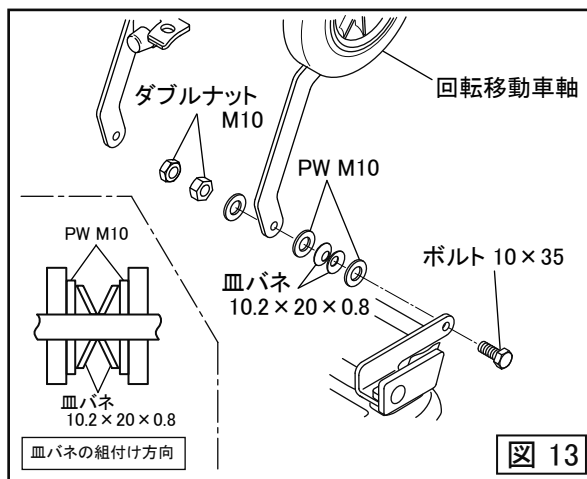


● 車軸の回転落下速度の調整

車軸の回転落下の速度が速い場合は、車軸の支点にある皿バネの締め込み具合で調整します。ダブルナット(M10)をゆるめてからボルト(M10×35)の締め付けで調整します。(図13)

注 意

車軸の回転落下の速度が速いと足元を打撃する危険があります。



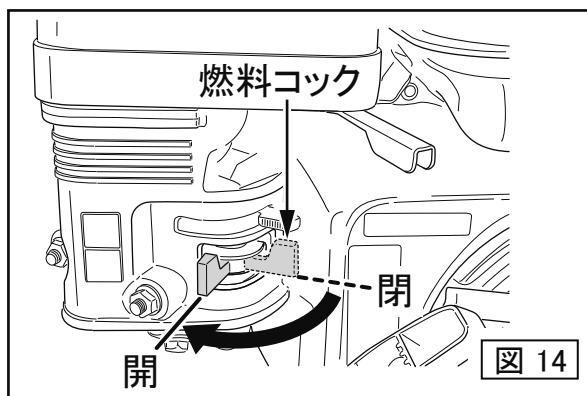
8. 運転

8.1 始動

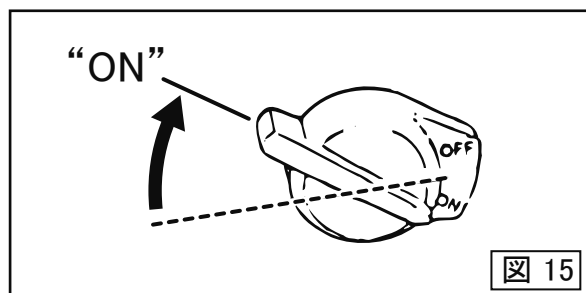
⚠ 危険

屋内や屋外でも換気の悪い場所では使用しないでください。エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており大変危険です。

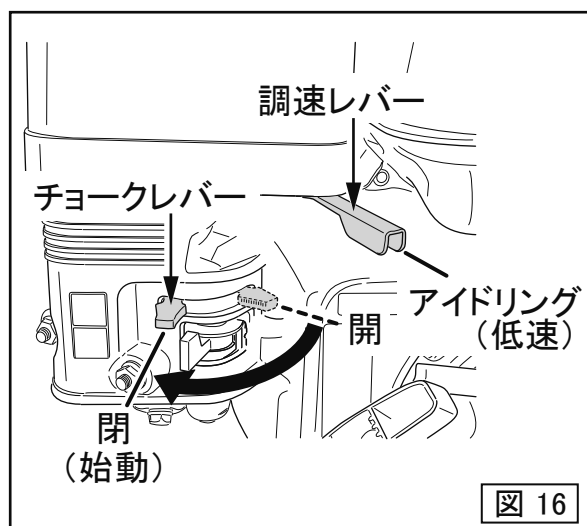
- 1 燃料コックのレバーを開き燃料を通します。(図14)



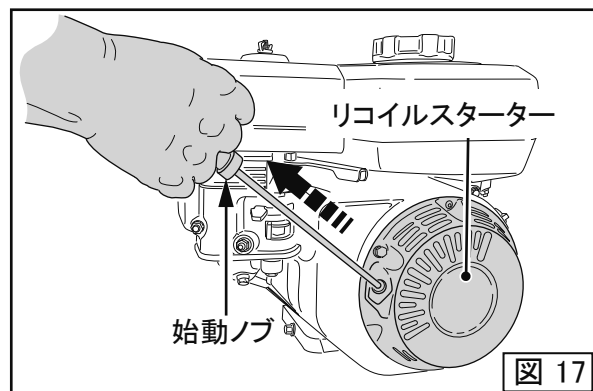
- 2 エンジnstopスイッチを“ON”の位置にします。(図15)



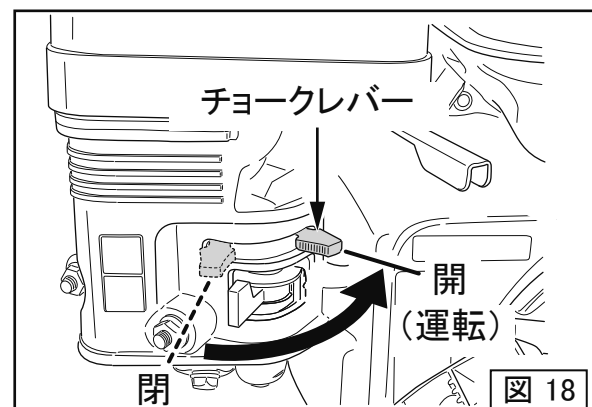
- 3 調速レバーをアイドリング(低速)の位置にして、チョークレバーを閉じます。チョークレバーは寒い時には全閉にしてください。夏季またはエンジンが暖まっている時には半開または全開にしてください。(図16)



- 4 リコイルスターターの始動ノブを握り、少し引くと軽く手ごたえがあります。そこから勢い良く引張って下さい。この時、ロープを引張りすぎるとロープが切れたり抜けてしまう恐れがありますから注意してください。(図17)

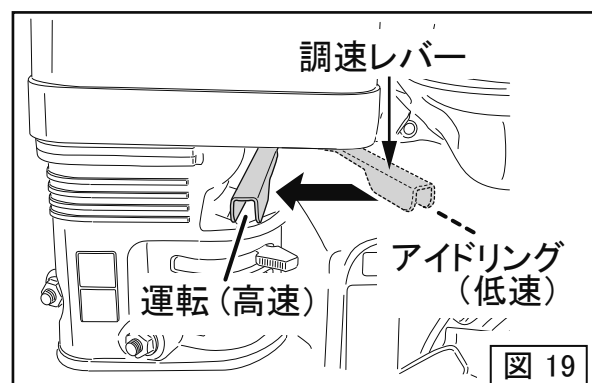


- 5 エンジンが始動したらチョークレバーを開きます(始動時に閉じている場合)。(図18)
始動後は、必ず2~5分の間アイドリング(低速)で暖機運転を行います。特に寒冷時では必ず実行してください。



8.2 運転

- 1 調速レバーを一気に運転(高速)側に動かすと本機は振動と前進を始めます。調速レバーをゆっくり動かすと遠心クラッチがスリップしてしまうので、調速レバーの動作はゆっくりではなく一気に行ってください。(図19)

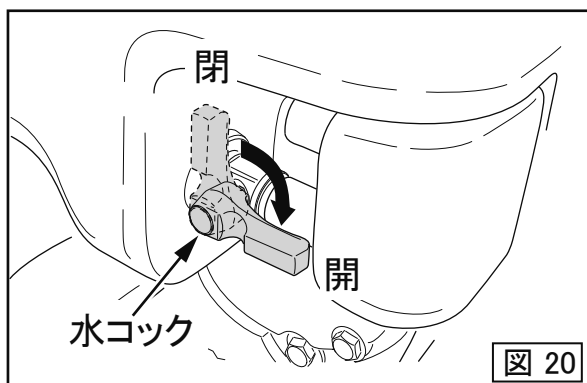


注意

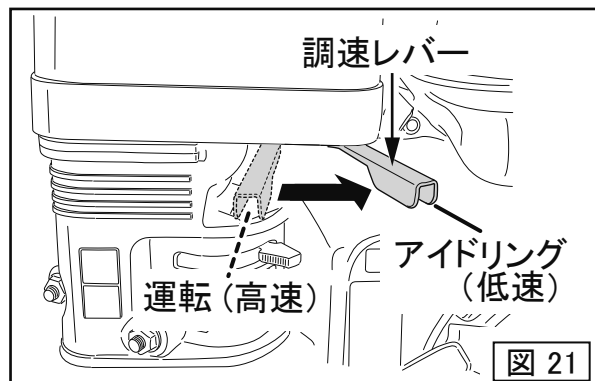
粘土を含む土壌で作業する場合は、転圧盤が地面から離れにくく、走行が遅くなります。このような場合は転圧盤の底面に粘土が付着していないかを点検してください。

なお、粘土質や高含水比の土壌では本機の転圧力が有効に働かないため、ランマー等の転圧機を使用するか、適正な含水比になるまで乾燥させてください。

- 2 散水作業を行う時は、水タンクの水コックを開いてください。(図20)



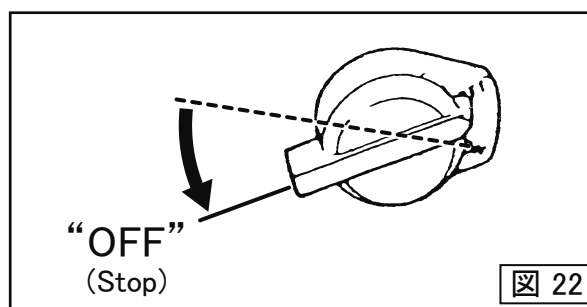
- 3 転圧作業を止める時は、调速レバーを一気にアイドリング(低速)の位置まで戻してください。(図21)



- 4 散水作業を行っていた時は水タンクのコックを閉じます。

9. 停止

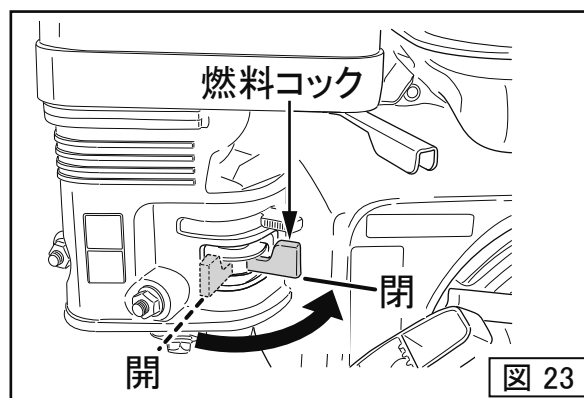
- 1 调速レバーをアイドリング(低速)へ戻し(図21)、約3～5分間低速運転のままでエンジンの温度を下げます。
- 2 エンジンストップスイッチを“OFF”の位置にします。(図22)



注意

エンジンを高温の状態で停止させますと、シリンダー内壁の劣化を早めて、エンジンの寿命が短くなったり思わぬ故障の原因となります。

- 3 燃料コックを閉じます。(図23)



10. 輸送と保管

クレーンによる積み下ろし作業には資格が必要です。クレーンの運転や玉掛け作業の資格を持っている人が行ってください。

10.1 積み降ろし

⚠ 警告

- フロントカバーや各部の破損やゆるみ、脱落が無く安全であることを確認してください。
- 積み降ろし時は、必ずエンジンを停止してください。
- 強度が充分で、キンク(よじれやコブ等)や型くずれの無いワイヤーロープをご使用ください。
- フックから垂直にゆっくり吊り上げてください。また、吊り上げた本機の下に人や動物が絶対入らないようにしてください。
- 安全のために必要な高さ以上には吊り上げないでください。

- 1 本機の積み降ろしにはクレーン等を使用してください。
- 2 積み降ろし作業は、必ず監督者(指揮者)の指示にしたがって行ってください。
- 3 吊り上げる際には、必ず吊り上げフックを使用してください。フック以外の場所(ハンドル等)での吊り上げは絶対に行わないでください。(図24)

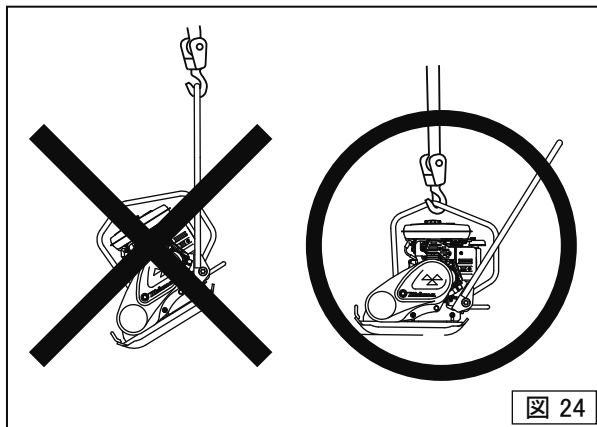


図 24

10.2 運搬

⚠ 警告

- 運搬時は、必ずエンジンを停止してください。
- 運搬時は必ず燃料を抜き取ってください。
- 本機が動いたり、倒れないようにしっかり固定してください。

10.3 保管

- 1 各部のゴミや泥を水洗いして落としてください。水洗い後は十分に乾燥させてください。
 - 2 ゴミ、埃がかからないようカバーをかけて直射日光の当たらない湿気の少ない場所に格納してください。
- 長期保管する場合
- 3 燃料タンク、燃料パイプ、気化器(キャブレーター)の燃料は綺麗に抜き取ってください。
 - 4 エアクリーナー、マフラーの吸入口および排気口をしっかりと覆ってください。
 - 5 屋外に放置せず、必ず屋内で保管してください。
 - 6 本機を横(後)倒しの状態で保管しないでください。

11. 定期点検と調整

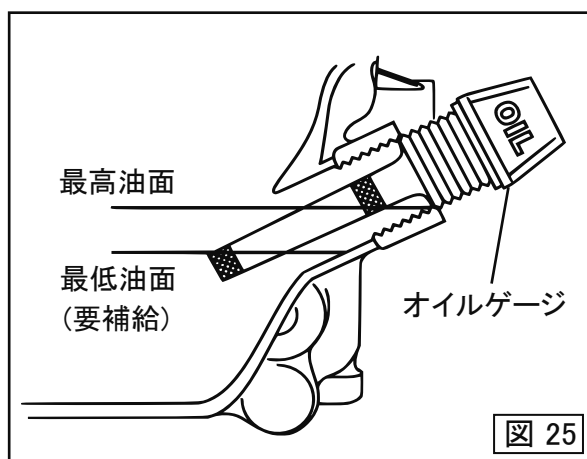
11.1 各部点検スケジュール

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日（作業前）	外観	傷、ゆがみ	
	燃料タンク	漏れ、油量、汚れ	ガソリン
	燃料系統	漏れ、油量、汚れ	
	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	防振ゴム	亀裂、磨耗、破損	
	起振体オイル	漏れ	エンジンオイル
	エアクリーナー	スポンジの埃	
	ガードフック	破損、傷、ボルト・ナットの緩み・脱落	
	ボルト・ナット類	緩み・脱落	
20 時間	エンジンオイル	初回のみ20時間で交換	エンジンオイル
100 時間毎	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
	起振体オイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
200 時間毎	Vベルト	傷、張り	
	クラッチ	汚れ、傷、磨耗	
	起振体オイル	交換	エンジンオイル
2 年 毎	燃料パイプ類	交換	
不定期	エアクリーナーエレメント	交換	

- エンジン関係の点検及び整備につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照してください。
- 上記は標準状態での点検時間です。使用条件により内容が異なりますので御注意ください。

11.2 エンジンオイルの交換

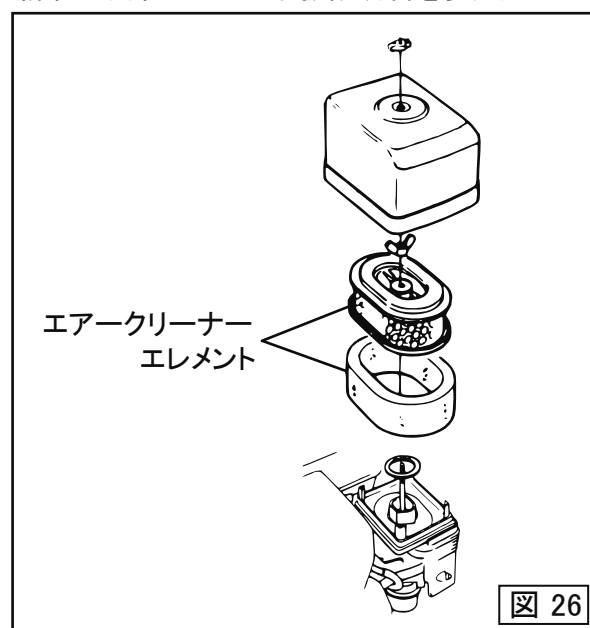
エンジンオイルは初回は20時間、以後100時間運転毎に交換してください。(図25)



	温度	使用オイル(SE級以上)
夏	25℃以上	SAE#30
春・秋	25～10℃	SAE#30、#20
冬	10～0℃	SAE#20
	0℃以下	SAE#10

11.3 エアークリーナーの清掃

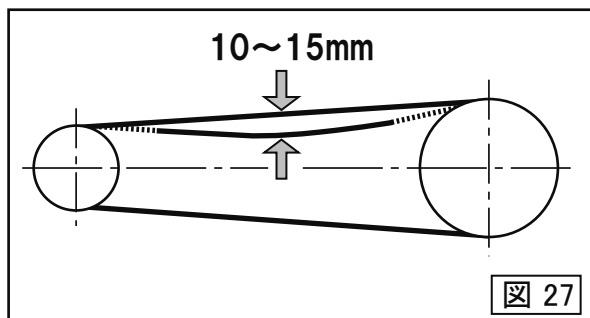
エアークリーナーエレメントの汚れが酷くなると、エンジンの始動不良、出力不足や運転に不調をきたし、エンジンの寿命を短くします。必ずエレメントの清掃は行ってください。汚れが取れない場合はエレメントを交換してください。(図26)
(詳細は別紙エンジン取扱説明書を参照)



11.4 Vベルト・クラッチの点検

● Vベルト

200時間毎にベルトカバーを外し、Vベルトの張り具合を点検してください。張りの具合は両軸の中間の所を強く指で押して10～15mm位たわむように張ってあれば正常です。(図27)



● クラッチ

クラッチの点検は、Vベルト点検と同時に行います。クラッチの外周の焼き付きやV溝の磨耗・損傷を目視で点検します。また、V溝が汚れている時は綺麗に掃除してください。ライニングシュー等の磨耗は運転検査で確認します。シューが磨耗してくると動力の伝達が悪くなり、クラッチがスリップします。

注 意

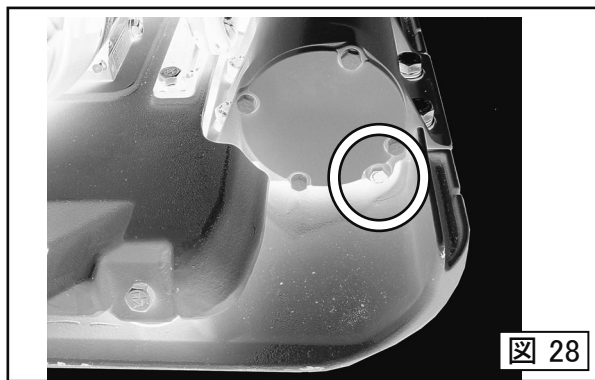
運転中に振動が弱くなったり、エンジンは正常に回転しても振動しない場合は200時間点検に関係なくVベルト・クラッチの点検・交換を行ってください。

11.5 起振体オイルの点検・交換

本機を水平にして起振体のオイルレベルプラグを外し、起振体オイルが口元まで入っているか確認してください。オイルレベルプラグは起振体ケース右側面(反ベルト側)にあります。(図28)

起振体オイルはエンジンオイル**#10W-30**を使用してください。油量は**200cc**です。

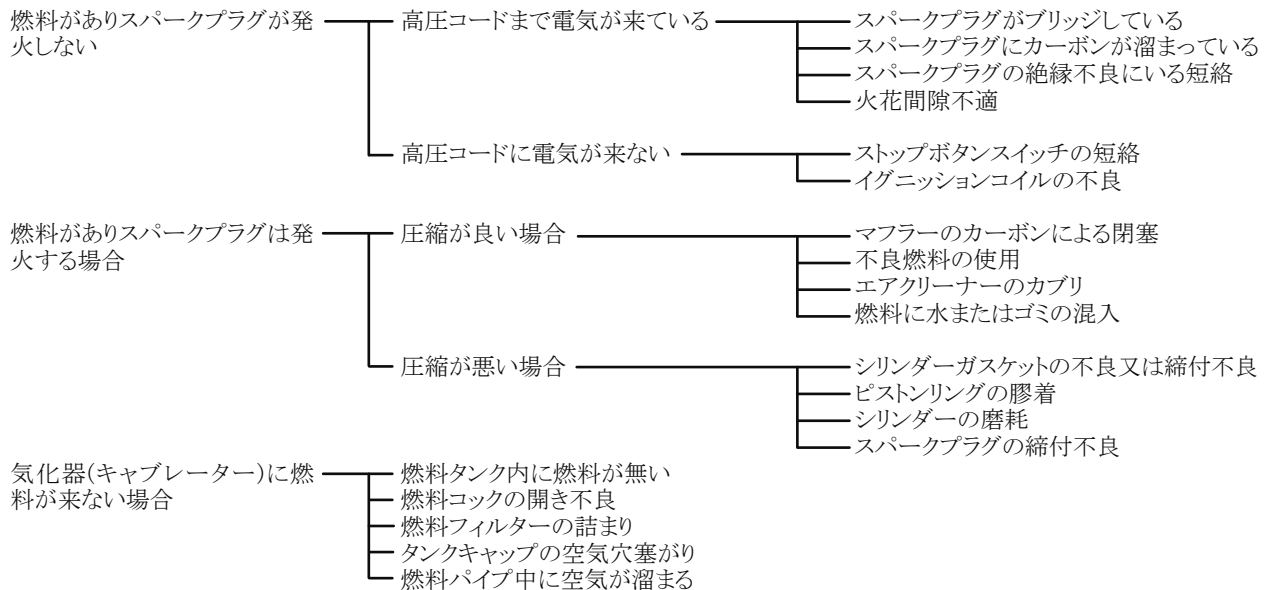
起振体オイルは1カ月または200時間運転毎にプラグを外し、機体を傾けて全て排出させ、新しい物と交換してください。



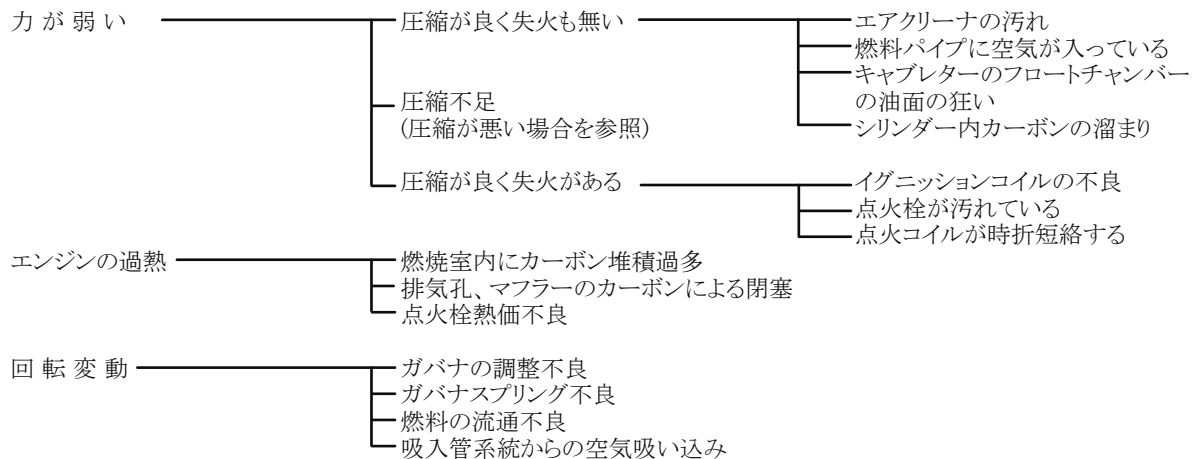
13. トラブルシューティング

13.1 エンジン

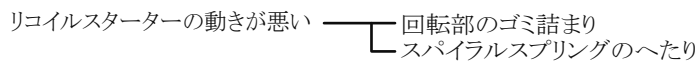
13.1-1 始動不良



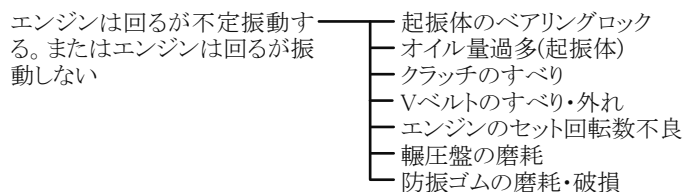
13.1-2 運転不調



13.1-3 リコイルスターターの動きが悪い



13.2 本体



Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.

1-4-3, Kanda-Sarugakucho, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0064, Japan

三笠産業株式会社

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ

TEL 048-734-2402 FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ

TEL 048-734-2401 FAX 048-736-6787

その他のお問合せ

info@mikasas.com

Web パーツリスト

<https://www.mikasas.com/MIKASA/index.html>



PRINTED IN VIETNAM